

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25283001

研究課題名(和文) 社会主義文化における戦争のメモリー・スケープ研究 旧ソ連・中国・ベトナム

研究課題名(英文) Memoryscape of War in Socialist Countries: the Soviet Union, China and Vietnam

研究代表者

越野 剛 (KOSHINO, Go)

北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授

研究者番号：90513242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：旧ソ連・中国・ベトナムなどの社会主義圏における戦争の記憶を比較し、革命と戦争の物語化、戦う女性表象、伝統の再創造という三つのテーマに着目しながら、社会主義文化における共通性と差異を明らかにした。また記念碑、博物館、絵画、映画、文学、オーラルヒストリーなどを題材にすることで、総合的な記憶の風景(メモリースケープ)を再現することを重視した。

研究成果の概要(英文)：Our research project conducted a comparative study on war memories in the Soviet Union, China, Vietnam, and other (former) socialist regions for the purpose of clarifying similarities and differences in socialist cultural memories, focusing on three topics: narrativization of revolution and war, representation of fighting women, and re-invention of tradition. In addition, we aimed to reconstruct the total scenery of memory (memory-scape) by integrating diverse materials such as monuments, museums, pictures, films, literary texts, and oral histories.

研究分野：ロシア文学・文化史

キーワード：戦争の記憶 社会主義 地域間比較 ジェンダー 記念碑 ソ連 中国 ベトナム

1. 研究開始当初の背景

戦争の記憶・コメモレーションに関する研究は歴史学・社会学・精神医学・文学・芸術学などが学際的に関わる研究領域としてすでに確立している。ジョージ・モッセやアライド・アスマンによる包括的な研究をモデルにして、様々な地域の「国民」の記憶を探る試みがなされ、ソ連・中国・ベトナムなどの社会主義圏においても地域ごとの研究は蓄積されている。しかし革命と戦争による社会の急激な断絶と統合という類似した体験を複数地域間で比較する試みはこれまで見られなかった。本研究の準備作業のため、旧ソ連・中国・ベトナムという異なる地域の研究者が集まり、2012年7月15-16日に北海道大学で研究会「戦争のメモリー・スケープ」を開催した。

2. 研究の目的

20世紀の社会主義革命の経験を共有する旧ソ連、中国、ベトナムは、戦争の記憶が今日にいたるまで強力なナショナル・アイデンティティの基盤となっている。本研究では独ソ戦争、日中戦争、ベトナム戦争という20世紀を代表する凄惨な総力戦を取り上げ、社会主義文化圏において記憶される戦争表象の特徴を明らかにする。戦争の記憶を立体的に再構成するため、ヴィジュアルな表象を含めて事後的に構成される風景としての記憶(メモリースケープ)を研究の対象とする。したがって文学作品、映像資料、記念碑、博物館、オーラルヒストリーなどの戦争の記憶と関わるすべてのメディアを資料として用いる。現代世界において歴史的記憶の違いが生み出す様々な国際問題を考える上でも有意義な視点を提供することができる。

3. 研究の方法

(1) 本研究計画の特色は、社会主義文化という共通項を持つ複数地域の比較である。そのため、旧ソ連圏、中国・台湾、ベトナムにおいて、それぞれの地域の専門家以外のメンバーを含むグループで調査旅行を行う。記念碑・博物館、映画、オーラルヒストリーの資料を収集する際には、比較がしやすいような共通の形式を持つデータベースを構築する。研究成果の発表にあたっては、必ず自分の専門以外の地域の資料を利用して比較研究を心がける。

(2) 革命と戦争の物語化、戦う女性表象、伝統の再創造の3テーマを設定し、ひとつの地域に偏った研究にならないよう、旧ソ連・中国・ベトナムの研究者をそれぞれ1名ずつ配置した研究グループの編成を行う。隣接地域および文化理論の専門家に比較研究のための理論的枠組みを提供してもらう。

4. 研究成果

(1) 成果の刊行

2014年3月、学術誌『地域研究』14-2号において特集企画「紅い戦争の記憶 旧ソ連・中国・ベトナムを比較する」を掲載した。三地域における事例を公的な記憶とオルタナティブな記憶の二つに分け、科研メンバー6名によって分担執筆した。

2017年度中に科研メンバー全員の参加による最終成果報告集『戦争と革命のメモリースケープ(仮題)』を北大出版会から刊行する予定である。

(2) 共同現地調査

研究計画に沿って三地域で複数の科研メンバーによる共同現地調査を実施した。2013年9月には旧ソ連(モスクワ、ミンスク)を訪れ、ミンスクでは歴史家イーゴリ・クズネツォフ氏からレクチャーを受けた。2015年3月に台湾(金門島、台北)を訪れ、台北で演劇研究者の林于竝氏と意見交換を行った。2016年3月にベトナム(ハノイ、中部、ホーチミン)を調査し、ハノイで社会学者ファム・スアン・ダイ氏と意見交換を行った。2017年2月には南京で追加的な現地調査を実施し、民営の南京民間抗日戦争博物館の呉先斌館長にインタビューを行った。また旧ソ連・台湾・ベトナムの共同現地調査の成果について当該地域を専門としない科研メンバーが国内での第1回・第3回・第5回の研究会「戦争と社会主義のメモリースケープ」で報告を行い、地域間比較のためのモデルの構築を試みた。

(3) 国際学会

2013年8月9日に大阪経済法科大学で開催された第5回スラブ・ユーラシア東アジア学会において、パネルを二つ組織し、科研メンバー3名が報告を行った。

2013年9月の海外共同現地調査の際にモスクワで文芸誌『諸民族の友好』との共催で国際シンポジウム学会「戦争の記憶を比較する：ロシア、日本、アジア」を開催し、ロシア各地から作家・研究者9名を招へいし、科研メンバー5名が報告を行った。

2013年12月に北海道大学スラブ研究センターで開催された国際シンポジウムにおいて著名な研究者フィリップ・シートン氏とセルゲイ・ウシャーキン氏を招いてパネル「ロシアと極東における第二次世界大戦の記憶」を組織した。

2015年8月に神田外語大学で開催された第9回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)世界大会に参加し、パネルを二つ組織し、科研メンバー5名が報告を行い、映画研究者のアナスタシア・フョドロヴァ氏と孫柏氏を招へいした。

(4) 国内研究会

第1回2014年2月(亜細亜大学)、第2回2014年9月(北海道大学)、第3回2015年11月(明星大学)、第4回2016年6月(愛知教育大学)、第5回2017年2月(東京外国語大学)の計5回の研究会「戦争と社会主義のメモリースケープ」を開催した。科研メンバ

ーによる研究報告・共同現地調査成果報告の他に、ロシア・アヴァンギャルド研究の本田晃子氏、中国美術史の呉猛晋氏、ベトナム人類学のショーン・マラーニー氏、ベトナム映画研究の坂川直也氏、ポーランド研究の加藤久子氏、マンガ研究の雑賀忠弘氏、日中の博物館研究・文化人類学の楊小平氏、中国のオーラルヒストリー研究の石井弓氏、キューバ文学の久野量一氏、カンボジア研究の岡田知子氏を研究会に招いた。

(5) 研究成果の社会還元

2014年5-6月に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター公開講座の枠組みを利用し、本科研のメンバーが中心となって一般市民を対象に連続講演(計7回)を実施した。科研メンバーのうち越野、今井、高山がそれぞれ旧ソ連、ベトナム、中国における戦争と社会主義の記憶に関する講義を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計37件)

高山陽子「Socialised Body in Modern China」『国際関係紀要』25号、2016年、15-39頁、査読有

福田宏「『危機の時代』における西と東の狭間」『パン・ヨーロッパとファシズム：クーデンホーフ＝カレルギーとヨーロッパの境界』『地域研究』16-1号、2015年、110-117、118-136頁、査読有

前田しほ「スターリングラード攻防戦の記憶をめぐる闘争：象徴空間としての戦争記念碑」『思想』1096号、2015年、153-170頁、査読無

越野剛「社会主義圏の戦争の記憶を比較する」「ハティニ虐殺とベラルーシにおける戦争の記憶」『地域研究』14-2号、2014年、8-16、75-91頁、査読有

前田しほ「ロシアの戦争記念碑における兵士と母親イメージ-国民統合のジェンダー・バランス」『地域研究』14-2号、2014年、17-42頁、査読有

高山陽子「英雄の表象-中国の烈士陵园を中心に」『地域研究』14-2号、2014年、43-58頁、査読有

平山陽洋「ベトナムにおける公式的な戦争の記憶-記念碑と戦争展示をめぐる考察」『地域研究』14-2号、2014年、59-74頁、査読有

田村容子「革命叙事と女性兵士-中国のプロパガンダ芸術における戦闘する女性像」『地域研究』14-2号、2014年、92-111頁、査読有

今井昭夫「ベトナムにおける戦争の記憶の『社会化』-『捕虜となった革命戦士博物館』の事例を通して」『地域研究』14-2号、2014年、112-125頁、査読有

[学会発表](計58件)

前田しほ「Gender Hierarchy in Soviet Russian Memorial of the Great Patriotic War」国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)、2015年8月7日、神田外語大学(千葉県千葉市)

平松潤奈「Money, Body, Language: Mediums of Exchange in A. Platonov's Chevengur」国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)、2015年8月7日、神田外語大学(千葉県千葉市)

越野剛「The Image of German Soldiers and of Belarusian Collaborators in Belarusian-Soviet War Films」国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)、2015年8月7日、神田外語大学(千葉県千葉市)

田村容子「鬼が来た! 画報、連環画、映画における日本人の形象」(招待講演、中国語) 人大文学院影像論壇、2014年3月3日、人民大学(北京、中国)

今井昭夫「ベトナムにおける抗米救国抗戦の記憶：ベトナム国内・退役軍人たちの聞き取り調査からの素描」(日本語+ロシア語通訳) 国際シンポジウム「戦争の記憶を比較する：ロシア、日本、アジア」、2013年9月11日(国際交流基金モスクワ日本文化センター、ロシア)

前田しほ「ソ連の戦争の記憶における女性のイメージ」(ロシア語) 国際シンポジウム「戦争の記憶を比較する：ロシア、日本、アジア」、2013年9月11日(国際交流基金モスクワ日本文化センター、ロシア)

田村容子「中国のプロパガンダ芸術における戦闘する女性像」(日本語+ロシア語通訳) 国際シンポジウム「戦争の記憶を比較する：ロシア、日本、アジア」、2013年9月11日(国際交流基金モスクワ日本文化センター、ロシア)

向後恵里子「肉弾：日露戦争における戦傷兵士のイメージ」(日本語+ロシア語通訳) 国際シンポジウム「戦争の記憶を比較する：ロシア、日本、アジア」、2013年9月11日(国際交流基金モスクワ日本文化センター、ロシア)

向後恵里子「The Human Bullets: The Images of the Wounded Soldiers in the Russo-Japanese War」スラブ・ユーラシア研究東アジア学会、2013年8月9日、大阪経済法科大学(大阪府八尾市)

越野剛「Cultural Representation of the Khatyn Massacre in Belarus」スラブ・ユーラシア研究東アジア学会、2013年8月9日、大阪経済法科大学(大阪府八尾市)

[図書](計20件)

武田雅哉、加部勇一郎、田村容子編著『中国文化55のキーワード』ミネルヴァ書房、2016年、298(24-28、76-79、92-95、128-131、180-183、208他)

寺田匡宏、西芳実、亀山恵理子、村上勇介、山本博之、川喜田敦子、越野剛、清水チナツ著、寺田匡宏編著『災厄からの立ち直り

高校生のための『世界に耳を澄ませる方法』あいり出版、2016年、284(176-211)
村上勇介、帯谷知可、岩下明裕、末近浩太、仙石学、小森宏美、福田宏、長岡慎介著、村上勇介、帯谷知可編著『融解と再創造の世界秩序』青弓社、2016年、212(137-160)
古田元夫、倉沢愛子、石井弓、若林正文、長沢栄治、日下部尚徳、川口悠子、越野剛、家田修、セルヒー・チョーリー著。川喜田敦子、西芳実編著『歴史としてのレジリエンス：戦争・独立・災害』京都大学学術出版会、2016年、368(281-300)

Dmitrii Badalian, Kyoo Yun Cho, Jin Seok Choi, Bora Chung, Boris Egorov, Junna Hiramatsu, Akiko Honda, Boris Lanin, Shiho Maeda, Takashi Matsumoto, Tadashi Nakamura, Hye Hyun Nam Young Eun Park, Isina Shatova, Satoko Takayanagi, Naoto Yagi. Edited by Valerij Grechko, Soo-Hwan Kim, Susumu Nonaka, *Far East, Close Russia: The Evolution of Russian Culture - A view from East Asia* (Belgrade, Seoul, Saitama: Logos, 2015), 270 (167-183, 184-198)

Tomoo Marukawa, Yugo Konno, Akira Uegaki, Atushi Ogushi, Yuko Adachi, Fumiki Tawara, Tang Liang, Yoshifumi Nakai, Toru Ito, Yoshiro Ikeda, Jun Akiba, Hisae Komatsu, Go Koshono, Sanami Takahashi, Noriko Maejima, Hiroshi Kobayashi. Edited by Shinichiro Tabata, *Eurasia's Regional Powers Compared: China, India, Russia* (Routledge, 2015), 244 (205-221)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

越野 剛 (KOSHINO, Go)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
研究者番号：90513242

(2) 研究分担者

今井 昭夫 (IMAI, Akio)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20203284

向後 恵里子 (KOGO, Eriko)
明星大学・人文学部・准教授
研究者番号：80454015

高山 陽子 (TAKAYAMA, Yoko)
亜細亜大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：20447147

田村 容子 (TAMURA, Yoko)
福井大学・国際地域学部・准教授
研究者番号：10434359

平松 潤奈 (HIRAMATSU, Junna)

金沢大学・外国語教育研究センター・准教授
研究者番号：60600814

平山 陽洋 (HIRAYAMA, Akihiro)
名古屋外国語大学・外国語学部・助教
研究者番号：80570986

福田 宏 (FUKUDA, Hiroshi)
愛知教育大学・教育学部・講師
研究者番号：60312336

前田 しほ (MAEDA, Shiho)
島根県立大学・北東アジア地域研究センター・NEARセンター研究員
研究者番号：70455616